



# エンジンブロワ／集じん機

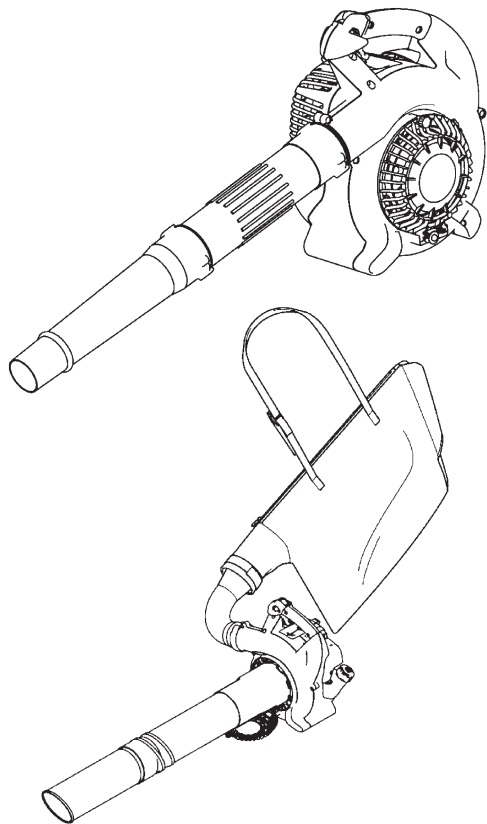
モデル **EUB4250**

モデル **EUB4250SP**

## 取扱説明書



### 目次



●国内排出ガス自主規制について	2
●シンボルマークについて	3
●安全上のご注意	5
●仕様	10
●各部の名称	11
●注意ラベル	12
●使用準備	13
1. ブロワチューブとブロワノズルの取付け方	
2. 集じんキットの取付け方	
●運転を始める前に	14
1. エンジンオイルの点検・補給	
2. 燃料の給油	
●運転	17
1. 始動方法	
2. 停止方法	
●アイドルリングの調整	20
●キャブレタのアイシング防止	21
1. 気温が 10℃より高い環境	
2. 気温が 10℃以下の環境	
●作業方法	22
1. ブロワ作業	
2. 集じん作業	
●点検と整備	24
1. エンジンオイルの交換	
2. エアクリーナの清掃	
3. スパークプラグの点検	
4. 燃料フィルタの清掃	
5. 各所ボルト、ナット、ビスの点検	
6. 各部の清掃	
7. ガスケット、パッキンの交換	
●格納方法	29
●故障かな？と思ったら	30
●エンジンブロワ／集じん機 保証書	36

このたびはマキタエンジンブロワ／集じん機をお買い上げ賜り厚くお礼申し上げます。

ご使用に先だち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の機能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただき、いつまでも安全に効率よくお使いいくさるようお願いいたします。

## 国内排出ガス自主規制について



このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。

本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

# シンボルマークについて

製品および取扱説明書にシンボルマークを掲載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。



取扱説明書をよくお読みいただき内容を十分ご理解のうえご使用ください。



換気の悪い場所では使用しないでください。



自動車用ガソリンを入れてください。



保護具を着用してください。



エンジンを停止してください。



給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。






給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。



万一の場合にそなえて救急箱を備えてください。

## 注意文の 警告 ・ 注意 ・ 注 の意味について


ご使用上の注意事項は  警告 と  注意 ・  注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

### 警告

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

### 注意

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお  注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

### 注

：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なお注意。

# 安全上のご注意

## 全 般

### ⚠ 警 告

1. ご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、内容を十分ご理解のうえ、ご使用ください。



- 機械の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。
2. 身体を冷やさないような服装で作業してください。
  3. 袖や裾の締りのよい服装をしてください。また、手ぬぐいやタオルを首から下げて作業しないでください。
    - 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
  4. 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むよう指導してください。また、子供には本機を貸さないでください。
    - 機械の取り扱いの知識が不十分な場合、事故の原因になります。

5. 保護帽（ヘルメット）、耳栓、保護メガネ（ゴーグル）、防振性のよい手袋、滑り止めのついた安全靴、すね当てなどの保護具を着用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。



## 作業前

### 警告

- 次のときは本機を使用しないでください。事故の原因になります。
  - 疲れているとき、身体が不調なとき。
  - 酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
  - 夜間の使用。
  - 妊婦による作業。
- 燃料の取り扱いには十分注意してください。
  - 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。
- 引火、火災の恐れがあります。
  - 燃料の給油をするときは、火気のない所で行なってください。
  - 燃料の給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどはタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
  - 燃料の給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行なってください。



- 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
- 燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも 3m 以上離れてください。
- ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のある物の近くでは、使用しないでください。
- マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。

- エンジンの排気ガスは有害です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。
  - 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。



- 雨上がりなど足元が滑りやすい場所では、使用しないでください。また、常に足元に注意し、バランスが保てる無理のない姿勢で使用してください。
  - 転倒してけがの原因になります。
- 作業場は十分明るくしてください。
  - 暗い場所での作業は事故の恐れがあります。
- 次の場合はエンジンを停止させてください。本体が作動して、けがの恐れがあります。
  - 移動する場合
  - 使用しない、または修理する場合
  - その他危険が予想される場合
- 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
  - 本取扱説明書および当社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものは使用しないでください。事故やけがの原因となる恐れがあります。
- 吸気口やシリンダフィンのゴミは取り除いてください。
  - ゴミ詰りによる加熱で、ゴミが燃え、火災のおそれがあります。



## ⚠ 注 意

- |   |  |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 損傷した部品がないか点検してください。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 使用前に損傷した部品がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。</li></ul></li><li>2. エンジンの始動は安定のよい場所で行ってください。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事故の原因になります。</li></ul></li></ol> | <ol style="list-style-type: none"><li>3. 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規制があります。状況によって、しゃ音壁を設けて作業してください。</li></ol> |
|---|--|

## 作業時

### ⚠ 警告

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 始動時および運転中には、プラグキャップ部に手を触れないでください。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 感電する恐れがあります。</li></ul></li><li>2. ハンドル部は常に乾いた状態にし、手が滑らないようにしてください。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 確実に保持していないと、けがの原因になります。</li></ul></li><li>3. 始動するときは必ず取扱説明書にしたがってください。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 取扱説明書の指示以外の方法で始動すると、事故のおそれがあります。</li></ul></li></ol> | <ol style="list-style-type: none"><li>4. 使用中、本機の調子が悪かったり、異常音が生じたときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止してください。<ul style="list-style-type: none"><li>・ そのまま使用していると事故の原因になります。</li></ul></li></ol> |
|--|--|



### ⚠ 注意

- |  |   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. エンジンの始動は安定のよい場所で行ってください。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事故の原因になります。</li></ul></li><li>2. 使用時間は連続 1 時間以内とし、一連作業の後 30 分以上の休止時間を設けてください。</li></ol> | <ol style="list-style-type: none"><li>3. 使用中およびエンジン停止直後、マフラ、シリンダフィンなどの高温部に身体が触れないように注意してください。<ul style="list-style-type: none"><li>・ やけどの原因になります。</li></ul></li><li>4. エンジンをかけたまま放置しないでください。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事故の原因になります。</li></ul></li></ol> |
|--|---|



## 整備・格納

### ⚠ 注意

1. 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。
  - ・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。
2. エンジンオイル給油後はエンジンが正立状態になる様に保管、運搬してください。
3. 長期間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタ等から燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。
4. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
  - ・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因になります。

## その他

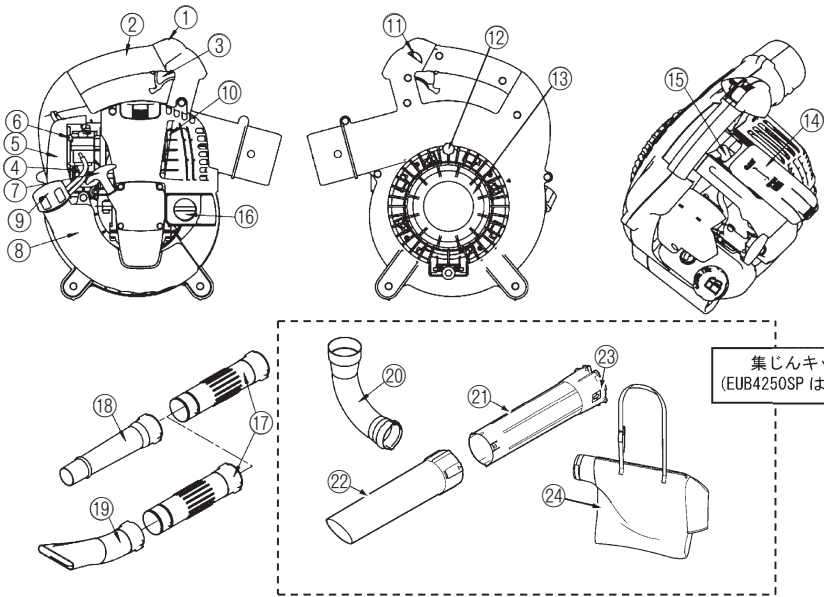
### ⚠ 注意

1. 車で移動する場合や本機を輸送する場合には、燃料を燃料タンクから抜き、燃料タンクが完全に空になっていることを確認してください。
  - ・ 火災、事故の原因になります。
2. 注意ラベルがはがれてしまった場合は、新しい注意ラベルを貼ってください。注意ラベルはお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
3. 万一の事故に備えて、必ず救急箱を作業場の近くに備え付けてください。救急箱から持ち出した場合には、直ちに交換品を入れておいてください。
4. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をお勧めします。

# 仕 様

型 式 名		EUB4250	EUB4250SP
乾燥質量(付属管無) (kg)		4.5	
寸法(全長×全幅×全高) (mm)		350 × 235 × 370	
エ ン ジ ン	総排気量 (mL)	24.5	
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量 (L)	0.5	
	使用潤滑油	API分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル (自動車用 4 ストロークエンジンオイル)	
	潤滑油量 (L)	0.08	
	気化器	ダイヤフラム式	
	点火方式	無接点マグネット方式	
	点火プラグ	NGK CMR4A (C タイプ)	
	始動方式	リコイル式 (メカニカルデコンプ)	
	潤滑方式	強制潤滑方式	
操 作 部	操作ハンドル	ポリウレタンケース一体型ループハンドル(ゴムグリップ付) 燃料タンク一体型補助ハンドル	
	エンジン回転制御方式	トリガレバー、トリガ固定レバー	
標準付属品		ブロワノズルA(丸型)、 ブロワノズルB(扇型)、 ブロワチューブ(2本)、 吸引ノズルA、吸引ノ ズルB、吸引ノズルC、 エルボ、ダストバッグ、 ボックスレンチ、オイ ルボトル、取扱説明書	ブロワノズルA(丸型)、 ブロワノズルB(扇型)、 ブロワチューブ(2本)、 ボックスレンチ、オイ ルボトル、取扱説明書

# 各部の名称



集じんキット  
(EUB4250SP は別売り)

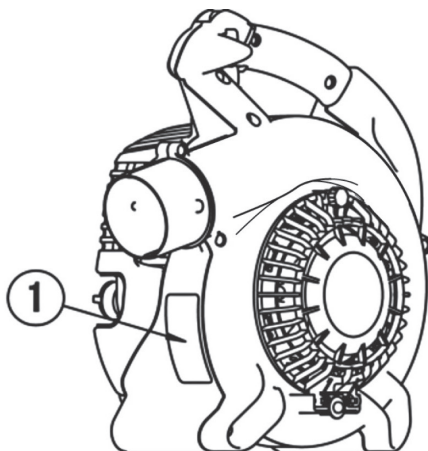
①ストップスイッチ	⑨燃料タンクキャップ	⑬ブロワチューブ
②メインハンドル	⑩マフラ	⑭ブロワノズル A
③トリガレバー	⑪トリガ固定レバー	⑮ブロワノズル B
④プライマポンプ	⑫スクリュ	⑯エルボ
⑤エアクリーナカバー	⑬吸引口カバー	⑰吸引ノズル A
⑥チョークレバー	⑭プラグカバー	⑱吸引ノズル B
⑦スタータハンドル	⑮スパークプラグ	⑲矢印マーク
⑧燃料タンク/アシストハンドル	⑯オイルキャップ	⑳ダストバッグ

# 注意ラベル

本機を安全にご使用いただくために、本機には注意ラベルが貼ってあります。注意ラベルを全て読んでからご使用ください。

注意ラベルははっきりと見えるように、常にきれいにしておいてください。本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものと交換し、貼り付けてください。ラベルはお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

## 貼付位置①

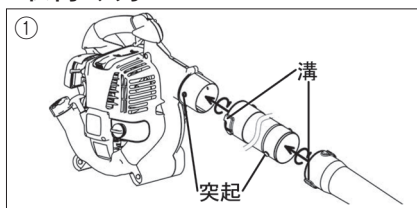


# 使用準備

ブロウ・集じん作業にあわせてそれぞれの付属品を取付けてください。

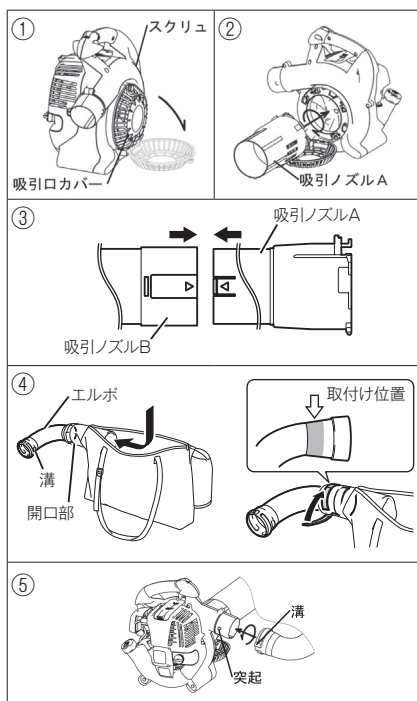
## 1. ブロウチューブとブロウノズルの取付け方

- ①ブロウチューブの突起とブロウノズルの溝を合わせ、ブロウノズルを回してしっかり接続してください。同じ要領でブロウチューブを本機に取付けてください。



## 2. 集じんキットの取付け方

- ①スクリュを緩めて、吸引口カバーを開けてください。
- ②吸引ノズル A の矢印マークと本機の●を合わせて、差し込んでください。矢印が▼の位置にくるまでノズルを回転させて、確実にロックしてください。
- ③吸引ノズル A に B の順で取付けてください。このとき吸引ノズル B の斜めの口が下を向くように取付けてください。
- ④ダストバッグのファスナーを開け、エルボを溝がついた方からダストバッグに挿入し、開口部へ押し込みます。図の位置を目安にマジックテープで締めつけます。取付け後はダストバッグのファスナーを締めてください。
- ⑤エルボの溝を本機排出口の突起に合わせ、エルボを回してダストバッグを本機に取付けてください。



## ⚠ 注意

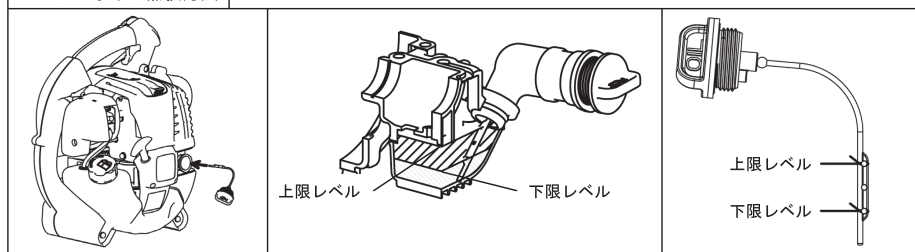
- ダストバッグは指定の位置に取付けてください。
  - ・ダストバッグをエルボの溝（本機側）寄りに取付けた場合、排気ガスがダストバッグにあたり焦げる恐れがあります。

# 運転を始める前に

## 1. エンジンオイルの点検・補給

- ①エンジンが冷えている状態で、以下の手順に従って行ってください。
- ・ 点検：本機を水平にし、オイルキャップを外し、ゲージの上限・下限マークの範囲内までオイルがあるか点検してください。不足している場合（特に、下限レベルに達していない場合）は、新しいオイルを補給してください。
  - ・ 補給：本機を垂直（吸引口カバー下）にし、オイルキャップを外してください。オイルパイプの口からオイルを供給し、オイルパイプ内の柵までオイルレベルが来たら給油を止めてください。
- ②参考として、オイルの補給時間は約 10h（燃料給油回数で、10 回（10 タンク））です。
- ③オイルの汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は 24 ページ参照）
- 《推奨オイル》…API 分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル（自動車用 4 ストロークエンジンオイル）
- 《オイル容量》…約 0.08L（80mL）

エンジンオイル点検方法

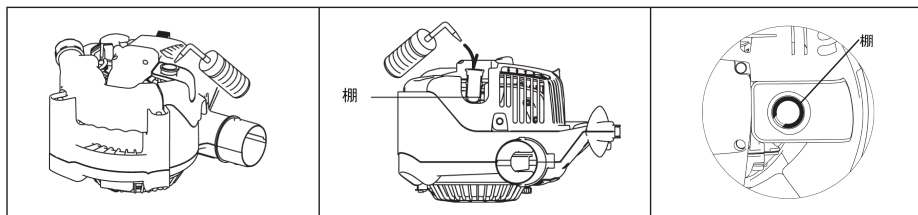


## 注

- ・ 本機を正立以外の姿勢で保管されていた場合、エンジン内にオイルが回ってしまい、補給の際、オイルの入れ過ぎになってしまいます。
- ・ オイル量が上限を超えますとオイル汚れや白煙の原因となります。

### オイル交換のポイント1《オイルゲージについて》

- ・ オイル給油口周りのゴミや汚れをとってからオイルゲージを外してください。
- ・ 取り外したオイルゲージは、砂・ゴミなどがつかない場所においてください。もしこれらがついたまま組付けると、オイル循環不良やエンジン各所の摩耗を引き起こし、故障の原因となる恐れがあります。



### オイル交換のポイント2《オイルをこぼしてしまったら》

- ・ オイル汚れの原因となりますので、必ず拭き取ってから運転してください

## 2. 燃料の給油

### ⚠ 警 告

- 燃料の給油をするときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。
  - ・ 火気のない所で行ってください。またタバコを吸うなど、火気を近づけないでください。
  - ・ エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
  - ・ 燃料の入っている燃料タンクキャップを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
  - ・ 燃料をこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
  - ・ 換気のよい所で行ってください。
- 燃料の取り扱いには十分注意してください。
  - ・ 燃料が肌についたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

### 《燃料の保管期間》

燃料専用容器に入れ、日陰で風通しの良い場所に保管した場合で4週間以内に使い切ることが目安です。専用容器でないとき、栓をしないうきなど、夏場では1日で劣化する場合があります。

#### 本機並びに補給タンクの保管方法について

- ・ 直射日光を避け、できるだけ涼しい所に保管してください。
- ・ 自動車のトランクや車中に燃料を入れたまま放置しないでください。

### 《燃料について》

このエンジンは4ストロークエンジンです。自動車用ガソリン（レギュラーガソリン又はプレミアムガソリン）を燃料としてください。

#### 燃料のポイント

- ・ ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。カーボン堆積が多くなったり、故障の原因となる恐れがあります。
- ・ 古い燃料を使用すると、始動不良の原因となります。

### 《給油について》

燃料の給油は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

### 《給油方法》

燃料タンクキャップを少し緩め、燃料タンク内と外部との圧力差を無くします。燃料タンクキャップを外し補給しますが、給油口いっぱいまで入れないでください。

補給後、燃料タンクキャップをしっかり締め付けてください。

燃料タンクキャップは消耗品です。点検して異常が認められたら交換してください。（交換目安：2～3年）



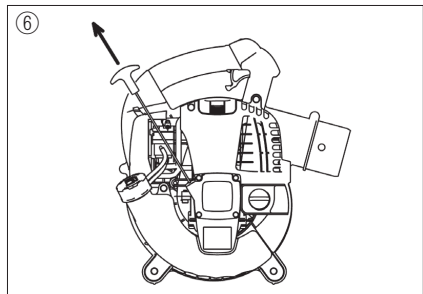
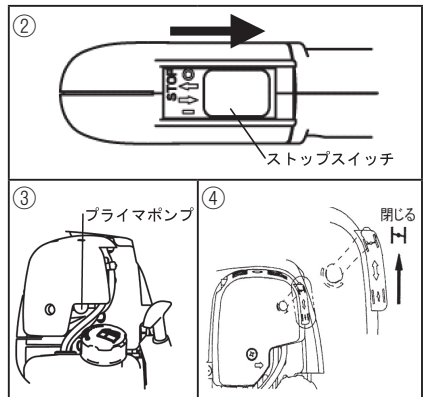
## 1. 始動方法

### ⚠ 警 告

- 燃料を給油した場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3m以上離れた所で始動させてください。
  - ・ 引火、火災の原因になります。
- エンジンの排ガスは有毒です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。
  - ・ 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。
- 始動後、音、におい、振動などの異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、点検を行ってください。
  - ・ そのまま使用しますと、事故の原因になります。
- ストップスイッチを“○”の位置にしたとき、エンジンが停止することを確認してください。

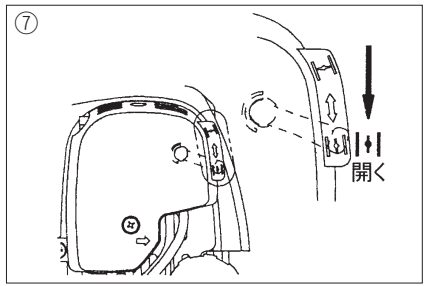
### 1) エンジンが冷えている場合、または燃料を給油した場合

- ①本機を平坦な地面に置いてください。
- ②ストップスイッチを“|”の位置にしてください。
- ③燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押ししてください。
  - ・ 7～10回程度で燃料が気化器にあがってきます。
  - ・ 押しすぎても必要以上のガソリンは燃料タンクに戻りますので、問題ありません。
- ④エアクリーナ右側のチョークレバーを上げてチョークを閉じてください。
- ⑤本機が動かないように左手でメインハンドルを押さえ、腰を十分に落とし、安定した姿勢をとってください。
- ⑥スタータハンドルに抵抗を感じるまでゆっくり引き出してください。そこからスタータハンドルをいったん戻し、勢いよく引っ張ります。
  - ・ ロープは一杯に引ききらないでください。
  - ・ 引いたスタータハンドルは、その位置から手放さずに戻してください。



⑦エンジンを始動したら、チョークレバーを開けてください。

- ・ チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に開き、必ず全開にしてください。
- ・ 寒い時またはエンジンが冷えている時は、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する場合があります。ご注意ください。



⑧2～3分間低速で暖機運転をしてください。

⑨エンジンの回転数が安定し、低速から高速回転にしたときに滑らかに加速するようになれば暖機運転完了です。

## 注

- ・ チョークレバーを「閉」の位置から更に上に上げると破損します。
- ・ 爆発音がしてエンジンが止った場合、または、始動したがチョークレバーを操作する前に止った場合は、チョークレバーを「開」にし、再びスタータハンドルを数回引いて始動させてください。
- ・ チョークレバーを「閉」の位置にしたまま、スタータハンドルをいつまでも繰り返し引き続けると燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。
- ・ 燃料を吸い込みすぎたときは、スパークプラグをはずしてスタータハンドルをすばやく数回引いて余分な燃料を出してください。また、スパークプラグの電極部を乾かしてください。
- ・ スロットルレバーを低速にしても、スロットルバルブがアイドル調整ネジに当たるまで戻らない場合は、コントロールケーブルの引掛かりを直して戻るようにしてください。

## 2) エンジンが暖まっている場合

①本機を平坦な地面に置いてください。

②プライマポンプを数回押してください。

③チョークレバーが開いていることを確認してください。

④本機が動かないように左手でメインハンドルを押さえ、腰を十分に落とし、安定した姿勢をとってください。

⑤スタータハンドルに抵抗を感じるまでゆっくり引き出してください。そこからスタータハンドルをいったん戻し、勢いよく引っ張ります。

⑥エンジンがかかりにくい時はスロットルを1/3程度開けて始動してください。

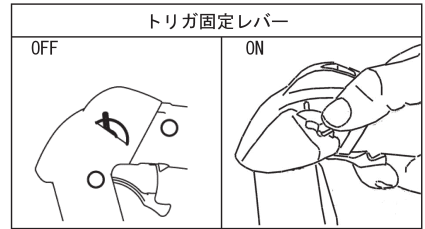
## 2. 停止方法

### 1) トリガ固定レバーが OFF の場合

- ・ トリガレバーを離して、エンジンの回転を落としてからストップスイッチを“○”の位置にしてください。

### 2) トリガ固定レバーが ON の場合

- ・ トリガ固定レバーをOFFにして、エンジンの回転を落としてからストップスイッチを“○”の位置にしてください。



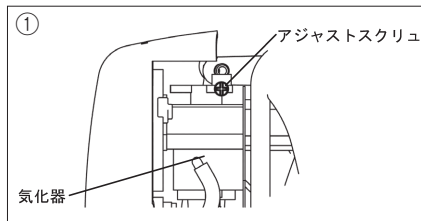
# アイドリングの調整

## ⚠ 注 意

- キャブレタは工場出荷時に調整済みです。アイドリング以外は調整しないでください。もし調整が必要になりましたら、お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

### 1. 低速回転の確認

- ・アイドリング時にエンジンが停止してしまう時は、回転が安定するようにアイドリングの調整を行ってください。
- ・アイドリングの調整は、アジャストスクリューをプラス（+）ドライバーを用いて回して下さい。
- ・アジャストスクリューを右に回すとエンジン回転が上昇し、左に回すと降下します。



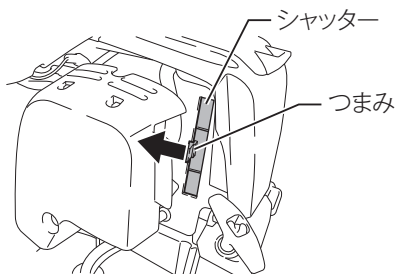
# キャブレタのアイシング防止

## ⚠ 注 意

- 気温が 10°C より高い環境では、シャッターを閉じてください（通常の設定）。
  - ・ シャッターを開いたまま（アイシング防止の設定）で使用し続けると、エンジンがオーバーヒートにより故障する恐れがあります。
- 気温が低く、湿度が高い環境では水分がキャブレタ内で凍結し、エンジンの動作が不安定になることがあります。  
必要に応じて、下記の要領でシャッターを設定してください。

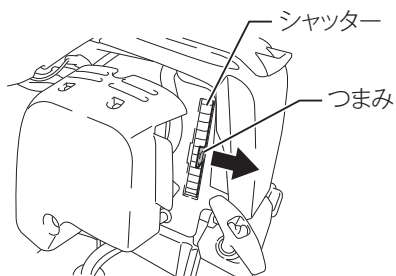
### 1. 気温が 10°C より高い環境

- ・ シャッターのつまみを持ち、シャッターを左方向にスライドさせ、シャッターを閉じてください。



### 2. 気温が 10°C 以下の環境

- ・ シャッターのつまみを持ち、シャッターを右方向にスライドさせ、シャッターを開いてください。



# 作業方法

## 1. ブロワ作業

- ・ 本機をしっかり保持して作業してください。
- ・ ちり払いされるものにノズルの先端を向けて、トリガレバーを引いてください。
- ・ トリガ固定レバーによって、任意の位置でトリガレバーを固定できます。
- ・ 作業に適したエンジン回転でトリガレバーを保持し、トリガ固定レバーを“ON”にします。
- ・ エンジン回転数を調整するときは、一度トリガ固定レバーを“OFF”にし、再度トリガレバーにてエンジン回転数を調整してからトリガ固定レバーを“ON”にして固定してください。
- ・ トリガ固定レバーを“ON”にしたままトリガレバーを操作すると、故障の原因になります。
- ・ 燃料タンク下部がアシストハンドルになっていますので、両手作業が可能です。この際、必ず右手でアシストハンドルを保持してください。



## 2. 集じん作業

### ⚠ 警 告

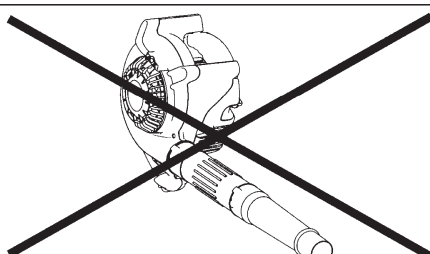
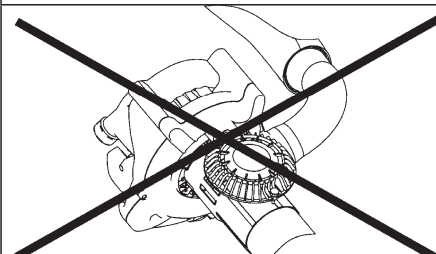
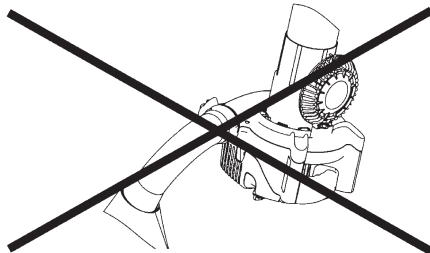
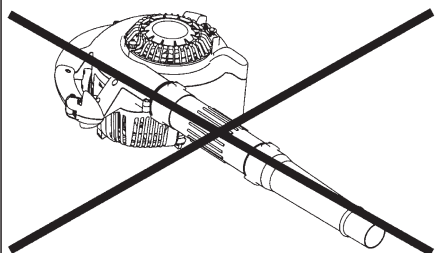
- 灯油・ガソリン・火のついたタバコなどは吸い込ませないでください。
  - ・ 火災の原因になります。
- 大きな木片・金属・ガラス・小石などの異物は吸い込ませないでください。
  - ・ 故障の原因になります。
- ダストバッグにゴミがたまりすぎると、エンジン側へ集じん物が流出する可能性があるため、ゴミは早めに捨ててください。
  - ・ 火災の原因になります。

- ・ ダストバッグのベルトを肩にかけ、作業しやすいようにベルトの長さを調節してください。
- ・ ダストバッグがねじれていないことを確認し、トリガレバーを引いて集じん作業を行ってください。
- ・ ダストバッグにゴミがたまりましたら、本機からダストバッグを取り外し、ファスナを開いて中のゴミを捨ててください。



### 注

- 本機を吸引口カバー上およびメインハンドル下で運転すると、白煙、エアクリーナのオイル汚れ、オイル垂れの原因になります。



# 点検と整備

## ⚠ 注 意

- 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグやプラグキャップをはずしてください。
  - ・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。
- 点検整備後は必ずすべての部品を組み付けたことを確認してから運転を行ってください。

	項 目	点検・整備内容	記載ページ
使用前	エンジン、ねじ、ナット	損傷と閉まり具合の目視検査 全体的な状態と安全度の確認	28
	エアクリーナ	清掃	26
	冷却風通路	清掃	28
	エンジンオイル	点検、補給	14
	燃料タンク	清掃、点検	28
	アイドルリング回転数	点検、調整	20
給油後	トリガレバー	機能確認	—
	ストップスイッチ	機能確認	17
毎週	スパークプラグ	チェック、必要な場合は交換	27
50 時間毎	エンジンオイル	交換（初回交換は 20 時間運 転後に行ってください）	25
3 ヶ月毎	燃料フィルタ	清掃、交換	28
	燃料タンク	清掃	28
200 時間毎	燃料パイプ 吸・排気弁の隙間 エンジン オイルチューブ	交換 ※ 1 調整 ※ 1 オーバーホール ※ 1 点検 ※ 1	—
2 年間毎	燃料タンクキャップ	交換	16
休業休止時	燃料タンク	空にする	29
	キャブレタ	エンジンを運転し続け燃料を 空にする	29

※ 1……200 時間点検事項はお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。



# 1. エンジンオイルの交換

- ・ エンジンオイルが汚れていると、摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル量を守りましょう。

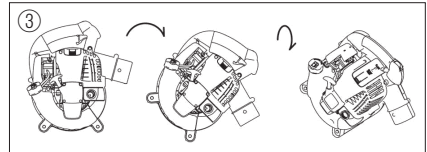
## △ 注 意

- エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをする恐れがあります。また停止直後はオイルケース内にオイルが戻りきらない為、オイル入れ過ぎの原因になります。
- ・ オイル量が上限を超えますとオイル汚れや白煙の原因となります。

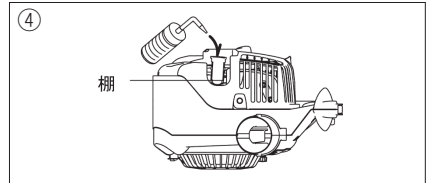
《交換時期》……初回 20 時間運転、その後 50 時間運転毎

《推奨オイル》…API 分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル（自動車用 4 ストロークエンジンオイル）

- ・ 交換に際しては、次の要領で行ってください。
- ①燃料タンクキャップが締め付けられていることを確認します。
- ②オイルキャップを外します。  
この時、オイルゲージにゴミがつかないように場所をおいてください。
- ③本機を吐出口側へ傾け、オイルを抜きます。オイルは容器などに受けてください。



- ④本機を垂直（吸引口カバー下）にし、オイルパイプ内の柵までオイルを注入してください。
- ⑤注入後、オイルキャップを緩まないように確実に締め付けてください。締め付けが緩いとオイルが漏れることがあります。



## エンジンオイル交換のポイント

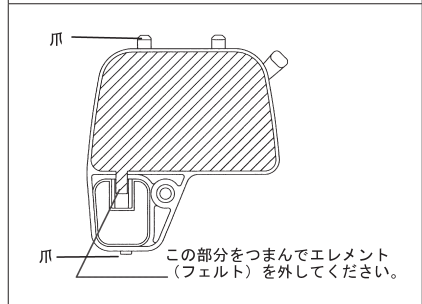
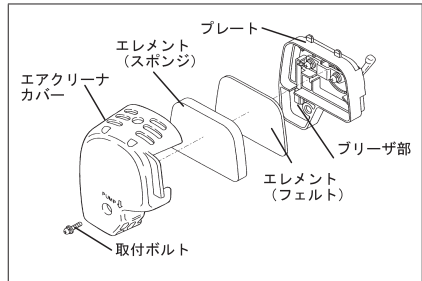
- ・ 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は、法令で義務付けられています。法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談のうえ処理してください。
- ・ オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。（6ヶ月に一回は新しいオイルと交換）

## 2. エアクリーナの清掃

### ⚠ 警告 : 火気厳禁

《清掃・点検時期》……毎日（10時間運転毎）

- ①エアクリーナカバーの取り付けボルトを外します。
- ②カバー下側を引っ張るようにして、エアクリーナカバーを外します。
- ③チョークレバーを全閉にし、キャブレタに塵埃などが入るのを防ぎます。
- ④エレメント（スポンジ）にオイルが付着している場合は、固く絞ってください。
- ⑤汚れがひどいときは、
  - ・エレメント（スポンジ）部分を取り外し、ぬるま湯又は水で薄めた中性洗剤で洗い完全に乾かします。
  - ・エレメント（フェルト）をガソリンで洗い、完全に乾かします。
- ⑥エレメントはよく乾かしてから組み付けてください。乾燥が不十分ですと始動困難の原因となります。
- ⑦エアクリーナカバーとプレートのブリーザ部付近についてのオイルをウエスなどで拭き取ります。
- ⑧掃除が終わり次第エアクリーナカバーを取り付け、取り付けボルトで締め付けます。（取り付ける場合は上側の爪をはめこんでから下側の爪をはめこんでください。）



### ⚠ 注意

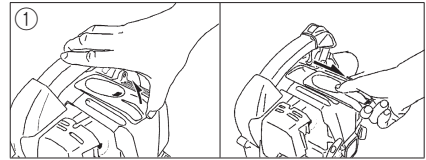
- 作業環境によってエレメントに付着する塵埃が多い場合は、一日に数回掃除してください。
- エレメントにオイルが付着したまま運転を続けると、エアクリーナ内のオイルが外に垂れ、オイル汚れの原因になります。

### 3. スパークプラグの点検

#### ① プラグカバー開閉

開けるときは、右図のようにメインハンドルとプラグカバー突起部に指をかけ、突起部を押し上げ、“OPEN”方向へスライドさせます。

閉めるときは、“CLOSE”方向へプラグカバー突起部下の爪がエンジンカバーに乗り上げるまでスライドさせ、最後に突起部を押し込みます。



#### ② スパークプラグの取り外し

スパークプラグの取り外しや取り付けには付属のボックスレンチを使ってください。

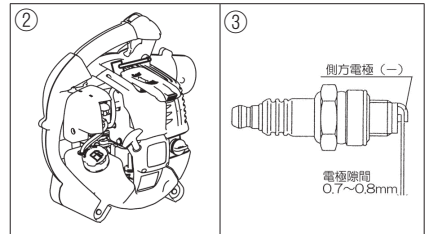
#### ③ スパークプラグの点検

スパークプラグの2電極間(左図参照)は、0.7～0.8mmです。この間隔が広すぎたり狭すぎたりする場合には、正しく調整します。

スパークプラグにカーボンが溜まっていたり、汚れている場合には完全に掃除するか交換します。

#### ④ スパークプラグの交換

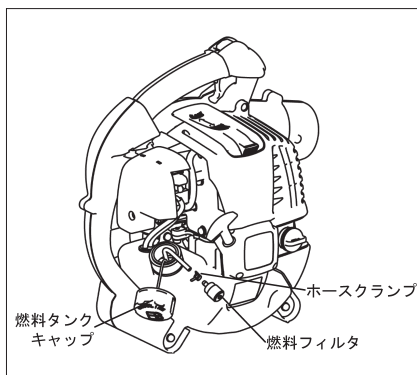
交換に際して、NGK-CMR4A をご使用ください。



#### 4. 燃料フィルタの清掃

- ・ 燃料フィルタが目詰まりすると始動困難になったり、エンジンの回転数が上がらない場合があります。
- ・ 燃料フィルタは次の要領で定期的にチェックして下さい。

- ①燃料タンクキャップを外し、燃料を抜き、燃料を空にしてください。この時、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。
- ②燃料フィルタを針金を用い給油口から引出します。
- ③燃料フィルタの表面が汚れている場合はガソリンで汚れを落としてください。汚れたガソリンは各自治体指定の方法で処分してください。燃料フィルタの汚れが著しいときは交換してください。
- ④燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。交換についてはお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。



#### 5. 各所ボルト、ナット、ビスの点検

- ・ 緩んだボルト、ナットなどは増し締めします。
- ・ 燃料やオイル漏れがないか点検します。
- ・ 破損部品は新品と交換し、安全を心がけてご使用ください。

#### 6. 各部の清掃

- ・ 本機はいつもきれいにしよう心がけてください。
- ・ シリンダフィンなどにゴミが詰ると、焼付き、火災の原因にもなりますので、十分注意してください。

#### 7. ガスケット、パッキンの交換

- ・ エンジンを分解した後、再度組み付けるときは、必ずガスケット、パッキンなどを新品と交換してください。

# 格納方法

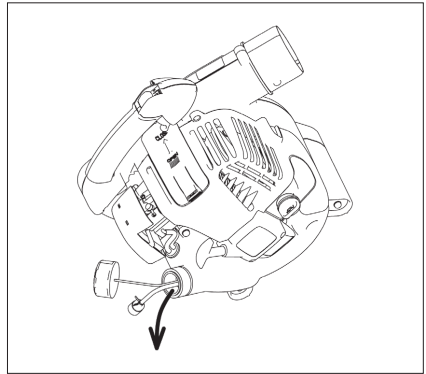
## ⚠ 警 告

- 燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
  - ・ 停止直後では、やけどまたは引火、火災の原因になる恐れがあります。

## ⚠ 注 意

- 長時間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタから燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。

- ・ 次の要領で燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。
- ①燃料タンクキャップを外し、燃料を抜き、燃料を空にしてください。この際、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。
  - ②燃料フィルタを、針金などを使い給油口から引き出します。
  - ③プライマポンプ内の燃料がなくなるまでプライマポンプを数回押し、燃料タンク内に出てきた燃料を抜いてください。
  - ④燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。
  - ⑤最後にエンジンが停止するまで運転させてください。
  - ⑥スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしてください。
  - ⑦スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせ、スパークプラグを取り付けてください。
  - ⑧格納するときは、本機が正立になるようにして保管してください。
  - ⑨抜き取った燃料は燃料専用容器に入れ、日陰で風通しのよい場所に保管してください。



## 故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、まずご自身で点検を行い、その上でなお異常があるときは、取扱説明書の記載内容以外はむやみに分解しないで、お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

不具合の状況	原因(状態)	対応
エンジンが 始動しない	ストップスイッチの操作忘れ	ストップスイッチを“ ”の位置にして下さい。
	プライマポンプの操作忘れ	7～10回押して下さい。
	スタータロープの引き速度が遅い	勢いよく引き出して下さい。
	燃料切れ	燃料を給油して下さい。
	燃料フィルタの目詰まり	清掃して下さい。
	燃料チューブが折れている	折れ目を直して下さい。
	燃料が古い	燃料が古くなると通常より始動が困難になります。新しい燃料と変えてください。 (約1ヵ月が目安です。)
	燃料の吸い込み過ぎ	チョークレバーを「開」にして、スロットルレバーを中速から高速にし、スタータハンドルをエンジンが始動するまで引いて下さい。それでも始動しない時は、スパークプラグを外し、電極を乾燥させ、元通り組付けて、同様の始動操作を行ってください。
	プラグキャップが外れている	確実に取り付けてください。
	スパークプラグの汚れ	清掃して下さい。
	スパークプラグ電極の隙間の異常	隙間を調整して下さい。
	スパークプラグのその他の異常	交換して下さい。
	キャブレタの異常	点検整備を依頼して下さい。
	スタータロープが引けない	点検整備を依頼して下さい。
駆動系の異常	点検整備を依頼して下さい。	

不具合の状況	原因 (状態)	対応
エンジンがすぐ止まる エンジンの回転が上がらない	暖機不足	暖機運転してください。
	エンジンが暖まっているのにチョークレバーを「閉」にしている	「開」にしてください。
	燃料フィルタの目詰まり	清掃してください。
	エアクリーナの汚れ、目詰まり	清掃してください。
	キャブレタの異常	点検整備をお申し付けください。
	駆動系の異常	点検整備をお申し付けください。
エンジンが止まらない ↓	コネクタが外れている	確実に取り付けてください。
	電気系の異常	点検整備をお申し付けください。
エンジンを実機をアイドリングにして、チョークレバーを「閉」にする		

暖機後の再始動でかからない時は…

上記、項目をチェックしても異常のない場合は、スロットルを 1/3 程度開けて始動してください。











株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)

882779G3

IWT